

対外協力部の組織の見直しについて

高畑 一也

本年4月から核融合科学研究所(研究所)の広報・アウトリーチ活動を担う「対外協力部」の組織を変更しましたのでご紹介します。

今回の対外協力部の組織の見直しでは、核融合研究をより効果的に広報し、広範囲なアウトリーチ活動を推進するために、既設の地域連携室を残し、残りの組織(室)を整理統合し、コンテンツ制作室、イベント企画室、広報見学室及びアウトリーチ活動推進室の4室を新設しました。地域連携室においては、従来どおり、重水素実験及び研究所の活動について、地域の方々の理解を得るための活動を行います。コンテンツ制作室においては、研究所紹介・研究内容紹介を目的とした記事を作成し、ウェブサイト、印刷物を使って効果的な広報を行います。イベント企画室では、オープンキャンパス、市民学術講演会をはじめ、研究所が主催するイベントを企画・運営します(写真1、2はこれまでのイベントの様子)。広報見学室においては、施設見学の案内、各種取材の窓口を行います。アウトリーチ活動推進室においては、地域から全国へのイベント出展、出張講義等を通じて研究所・核融合研究のアピールに繋がるアウトリーチ活動を行います(写真3、4はこれまでの活動の様子)。以上の5室が有機的に連携し、核融合研究が全国レベルで支持されるよう積極的な活動を行っていきたく思います。

なお、対外協力部のメンバーは、のべ55名です。その構成は、研究教育職員が36名、技術職員が6名、事務職員が8名、その他の専任職員が5名となっています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

(対外協力部長/装置工学・応用物理研究系 教授)



写真1 オープンキャンパス



写真2 市民学術講演会



写真3 地域の公民館で行っている工作教室



写真4 野辺山宇宙電波観測所特別公開におけるブース展示